

## 「デナイ」「デハナイ」の語形による使い分け — 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を使用した予備的調査 —

森 秀明

東北大学大学院文学研究科

hideaki@moriharuo.com

### 1. 調査の目的

名詞・ナ形容詞述語の否定形である「デナイ」「デハナイ」は、語形によって使い分けがある。例えば主節では「デハナイ」が、仮定条件では「デナイ」が使われるとする先行研究が多い。

- (1) 佐々木さんは、歯医者さんではない。
- (2)? 佐々木さんは、歯医者さんでない。
- (3) 弁護士試験は、優秀でないと合格できない。
- (4)? 弁護士試験は、優秀ではないと合格できない。

しかし、連体形では青木(1992)が「デナイ」が使われやすいとするのに対し、村田(1997)は「デハナイ」が使われやすいとするなど意見が対立している。また、同じ主節でも「デハナイ」が使われる主節を名詞述語文に限定する立場と、ナ形容詞述語文を含める立場とがある。さらに仮定条件でも「デナイ」のみが使用される節を「と」「ば」節のみに限定する立場もある。

このような意見の対立や記述の相違が生じるのは、先行研究が各自限られた一定数のテキストをもとに、語形による使い分けを調査しているためだと考えられる。そこで今回は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下 BCCWJ という)を使用して、これらの語形の使い分けを観察する。

### 2. 先行研究

青木(1992)の枠組みをもとに、先行研究をまとめると表 1 のようになる。

表 1 語形による「でない」「ではない」の使い分けの先行研究

	青木(1992)	野田(1996)	村田(1997)	日本語記述文法研究会編(2007)
主節はデハナイ専用	名詞述語	言及なし	名詞・ナ形容詞述語	名詞・ナ形容詞述語
連体形	ほぼ「でない」		「ではない」の傾向	
並立形	共通			
仮定条件はデナイ専用	仮定条件	仮定条件		「と・ば」節
既定条件	「ではない」専用			

これらの中で最も詳細に語形による使い分けを記述しているのは、青木(1992)である。しかし、

その分析に直接使用されたテキストは、井上靖『天平の甕』と宮尾登美子『つむぎの糸』の2冊（デハナイで98例）にすぎない。これらのデータで分析するということは、二人の作家（の2冊）の文体的な傾向を調べたに過ぎないとも言える（青木は最終的にデハナイの用例を376例収集しており、連体形の考察にはそのデータも使用されているが、連体形ではどちらも同じ傾向であると記されている）。

一方、村田(1997)では、用例の採取について性別や分野、近代以降の時代を問わずできるだけ広い範囲から採取しようとしたとしているものの、ムシ・ケモノなどの自然科学関係の用例が多いことなどについて「筆者（村田）の興味のかたよりによるもので他意はない。」とその偏りを認めている。

他の先行研究にしても用例の収集は各自の判断で収集されたテキストから手作業で抽出されたと思われる、収集された用例に偏りがある可能性は否定できない。大量のデータを手作業で収集した先行研究の努力は敬服に値するが、データの収集方法の違いが最終的に各自の意見の対立や記述の相違となって現れているものと考えられる。

これに対し、BCCWJは無作為抽出された図書館サブコーパスと出版サブコーパスを中心とし、それらを補完する特定目的サブコーパス（無作為抽出なし）を加え、1億語以上を集めた偏りの少ない大規模なコーパスである。これを利用して調査することで、より正確な実態を観察することが期待される。

### 3. 調査対象と分析方法

調査データにはBCCWJの全データを利用し、検索にはWebインターフェースである『中納言』を用いる。「デ（ハ）ナイ」は、「歩くだけではなく / おいしいばかりでなく」など動詞・形容詞＋副助詞などにも接続するが、今回は名詞とナ形容詞に接続する用例だけを対象とする。ナ形容詞を例として検索条件を示すと「品詞「形状詞」＋書字形「で」（＋書字形「は」）＋語彙素「無い」・品詞形容詞」である。用例は名詞・形状詞可能名詞・形状詞の各500例を抽出し、それをもとに全体の頻度を推計して考察する（以下の記述では「形状詞」をナ形容詞と言い換える）。推計に使用するそれぞれの品詞の総頻度を（デナイ、デハナイ）で記すと、ナ形容詞可能名詞を除いた名詞(11157, 53332)、ナ形容詞可能名詞(1109, 2565)、ナ形容詞(2221, 3926)となる。

分析する語形は、基本的に青木(1992)の分類に従うが、それに以下の修正を加える。

- ・終止形は、主文と従属節（引用節・等位節・疑問節の一部）に分けて調査する。この際「で（は）ないのだ。 / ないんです。」も終止形の分類に含める。
- ・連用形の修飾法は用例数のごく限られるため、欠損値とする。
- ・「ではなくとも」は、一般的な分類に従って仮定条件に分類する。
- ・「この限りでない」は法律関係でしか使われない特殊用法と考えられるため欠損値とする。

なお、「でないが、でないけれども」などは、等位節と既定条件の二つの用法がある。また「でなくて」も並立形と既定条件の二つの用法がある。このように二つの用法がある語形は、筆者が一人で判断して区分した。

#### 4. 調査結果と考察

表1は、名詞、ナ形容詞可能名詞、ナ形容詞の別に、それぞれ無作為抽出された用例500例を上記の分類基準に基づいて分類した頻度分布である ( $P < .01$ )。表2は、それぞれの総頻度から、各語形の推定数を求め、デナイ+デハナイの合計数に対するデハナイの割合を示したものである。

表1 品詞・語形別頻度分布 (各500例)

分類		デナイ			デハナイ		
		名詞	ナ形容詞可能	ナ形容詞	名詞	ナ形容詞可能	ナ形容詞
終止形	主節	18	41	108	217	235	243
	従属節	41	33	69	71	115	112
連体形		114	192	177	29	60	67
並立形		99	42	38	135	56	41
仮定条件	順接	144	137	59	0	4	6
	逆接	40	14	13	3	1	2
既定条件	順接	6	15	18	27	14	12
	逆接	0	3	0	15	14	12
欠損値		38	23	18	3	1	5

表2 デハナイの割合

(推定値)		
名詞 <sup>1)</sup>	ナ形容詞可能	ナ形容詞
98%	93%	80%
89%	89%	74%
55%	42%	40%
87%	76%	66%
0%	6%	15%
26%	14%	21%
96%	68%	54%
100%	92%	100%

1) ナ形容詞可能名詞を除いた名詞

##### 4.1 各語形におけるデナイ、デハナイの使い分け

まず、主節であるが、これを名詞に限ればデハナイの割合は98%となり、先行研究が支持された。しかし、ナ形容詞では80%にとどまる。これからすると青木(1992)のように、デハナイ専用と言える主節を名詞に限定する記述が望ましいと言えるだろう。

次に仮定条件だが、これは「デナイ」専用とは言えないことが分かった。ナ形容詞では順接で15%、逆接になると名詞とナ形容詞で20%以上が使用されている。用例を以下に示す。

(5) もしも、人間たちが定命の者ではなかったら、間違いなく神にもっとも近い種族だったでしょうね (サンプル ID: LBf9\_00189, 出典: 『ファンタジー王国』 )

(6) 自分の時間は、別に休日ではなくたって、どんな形でも持てるものだと考えを変えてみよう。(サンプル ID: PB41\_00202, 出典: 『会社、仕事、人間関係が「もうイヤだ!」と思ったとき読む本』)

表1では区分していないが、仮定条件を「と」「ば」節に限るとデナイはそれぞれ2%、0.2%ほどしか出現しないため、「と」「ば」節がデナイ専用であるとする記述は支持される。

青木(1992)と村田(1997)で記述に相違があった連体形では、名詞で55%、ナ形容詞で40%、全体平均では52%となる。連体形では両形式ともほぼ同様に使われているため、このどちらの記述も支持できない。また、青木(1992)では並立形は共通、既定条件ではデハナイ専用としているが、並立形ではデハナイが多く、既定条件ではデナイも使用されるためこれらの記述も支持できない。

## 4.2 形式別・品詞別による語形の使用割合

4.1 は、語形によってデナイ、デハナイのどちらが使われやすいかを観察した。ここからは、デナイ、デハナイの形式や直前の品詞によって使用される語形に一定の傾向があるか否かを観察する。図1、2は、デナイとデハナイがどのような語形で使用されているかを比較した表である。

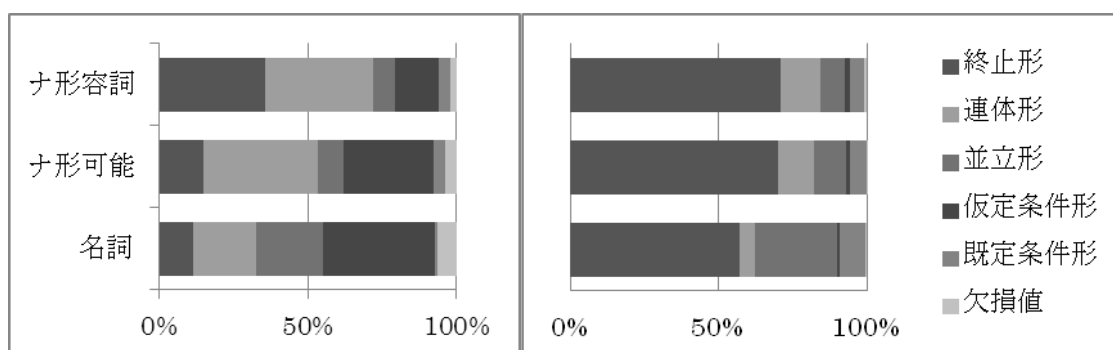


図1 デナイの語形割合

図2 デハナイの語形割合

デナイとデハナイでは使用されやすい語形が大きく異なる。最も用例数が多い名詞で比較すると、図1のデナイは仮定条件形の使用が最も多く、次いで連体形、並立形、終止形の順になる。一方図2のデハナイは6割近くが終止形で使われ、それに次いで並立形、既定条件形が多い。

また、同じ形式でも直前の品詞によって使用される語形の割合が異なることが観察された。図1のデナイは名詞とナ形容詞では各語形の使用割合が大きく異なり、ナ形容詞可能名詞はその中間的な割合となっている。図2のデハナイではこれほど大きな差はないが、名詞とそれ以外で傾向が異なる。デナイ、デハナイが語形によって使い分けられていることは知られていたが、品詞によって使用割合が異なることは、この調査によってはじめて明らかになった現象である。

以上、先行研究では名詞の主節がデハナイ専用、「と」「ば」節がデナイ専用という記述のみ支持されることが確認された。さらに直前に共起する品詞によって語形の使用割合が異なるという新たな発見があった。

### 参考文献

- 青木伶子(1992)『現代語助詞「は」の構文論的研究』笠間書院  
 野田尚史(1996)『新日本語文法選書「は」と「が」』くろしお出版  
 村田美穂子(1997)『助辞「は」のすべて』至文堂  
 日本文法記述会編(2007)『現代日本語文法③』くろしお出版